

2015年10月6日

各 位

大阪信用金庫
理事長 樋野 征治

定例調査：第165回 景気動向調査（7～9月期）

- ☆「足踏み状態」続く 売上・収益D I とともにダウン
- ☆設備投資「予定あり」△1.3ポイント 設備「実施+予定」=16.2%にダウン
- ☆少し落ち着く「仕入単価の上昇」 激しさ増す「価格競争の進展」
- ☆来春「新規採用しない」7割超

●「足踏み状態」続く 売上・収益D I とともにダウン

総合では、売上D I が△7.2（前回比△0.1ポイント）、収益D I が△10.7（前回比△0.5ポイント）となり、売上D I ・収益D I とともに前回調査から下落し「足踏み状態」が続いています。前回調査から売上D I が上昇したのは製造業（前回比+3.3ポイント）と卸売業（前回比+6.2ポイント）、飲食業（前回比+3.8ポイント）ですが、運輸業や不動産業では大きく落ち込みました。12月期への見通しでは、全ての業種で売上D I ・収益D I とともに上昇すると予想しています。好調な飲食業の背景には、賃金の上昇による外食機会の増加だけでなく、外国人観光客の増加も影響していると思われます。また建設業では、人件費や資材価格の高騰が収益に悪影響を及ぼしています。

●設備投資「予定あり」△1.3ポイント 設備「実施・予定」が16.2%にダウン

設備投資は、「実施中」が8.3%（前回比変化なし）、「予定あり」が7.9%（前回比△1.3ポイント）となり、「予定あり」が前回調査から減少しました。総合では依然堅調に推移しています。しかし「実施+予定」は、製造業が22.1%、飲食業が18.0%と高水準ですが、卸売業は11.6%、小売業が6.8%となり業種間で格差が大きくなっています。

●少し落ち着く「仕入単価の上昇」 激しさ増す「価格競争の進展」

経営上の問題点では、「売上の停滞・減少」が49.8%、「価格競争の進展」が43.4%、「競争の激化」が41.5%となりました。「人手不足」は運輸業で今年最大の50.8%、建設業で46.6%となり深刻化しています。また、「仕入単価の上昇」は、飲食業で58.2%となり、天候不順による野菜などの食材価格の上昇が収益に与える影響が懸念されます。またその他の業種では、最近の原油や鉄鉱石の価格の下落から「仕入単価の上昇」は少し落ち着いています。

●来春「新規採用しない」7割超

来春の「新規採用」について、「昨年より増員」は8.0%、「昨年と同数」は12.5%、「昨年より減員」は1.9%と採用を考える企業は22.4%（前年22.9%）に止まる一方、「採用しない」は77.6%となり、中小企業は来春の採用に消極的です。また、経団連が示したガイドライン（紳士協定）が採用に及ぼす影響について、来春採用を予定する企業では、「影響はない」が49.2%、「わからない」が38.0%となり、今のところ影響は小さいと思われます。

調査時点：2015年8月下旬

対象期間：2015年7～9月（実績） 2015年10～12月期（見通し）

対象企業：当金庫お取引先1,772社（大阪府内、尼崎市）

回答企業数：1,271社（回答率71.7%）

調査方法：調査票郵送および聞き取り調査

本調査に関するお問い合わせは下記までお願いします

株式会社だいしん総合研究所（担当：平山）

TEL: (06) 6211-2921 FAX: (06) 6211-2930

E-mail: souken@osaka-shinkin.co.jp

URL <http://www.osaka-shinkin.co.jp>

この街のホームドクター



大阪信用金庫